日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧　　師　渡邊　義彦
協力牧師　松下　恭規

教 会 報

178 号 2016 年 11 月 20 日

〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂
1-31-19
電話：03-3717-3870
Fax：03-3717-3916

巻頭言

「主によって良く戦いなさい」

――フィリピの信徒への手紙第 1 章 29～30 節――

牧師　渡邊　義彦

つまり、あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。あなたがたは、わたしの戦いをかつて見、今またそれについて聞いています。その同じ戦いをあなたがたは戦っているのです。

（新共同訳聖書）

「同じ戦いをあなたがたは戦っている。」使徒パウロの語る言葉を、どこか遠く他人事のように聞くこともできるでしょう。福音を伝道する上で同じ戦いを戦っている、と呼びかけられるに全く値しない者であるかのように思えます。異邦人の使徒として地中海世界を行き巡ったパウロほどに凄まじい、福音ための戦いをしていないからです。この言葉の遠さは、福音に対する迫害の圧倒的な量的多さや極度の激しさだけでなく、教会に対する迫害は遠い昔の出来事で、時間的な隔たりが大きすぎることでもあるかもしれません。けれども、古代において、一キリスト者が兄弟たちに語ったこの言葉が、量的にも、時間的にもこれほどに隔たっているにもかかわらず、わたしたちに、なお訴えてくることを考え、祈らなくてはなりません。

使徒パウロとフィリピ教会員の一体性を、使徒の言葉を通して聞くことができる、と思います。「同じ戦いを戦っている」という思いは、何よりも、ひとつ思いであること、同志であるということによるでしょう。現代に比べるならば、連絡も文通も、互いの行き来もはるかに不便で、遠くに離れた互いの連絡には、何ヶ月も何年もかかるようなことだったはずです。けれども、パウロもフィリピ教会の兄弟姉妹も手に取るように互いのことがわかっています。同じ思いを抱いて、同じ戦いを戦っていることが互いにわかっています。

わたしたちが暮らす世界では、通信手段も連絡方法もはるかに発達して、地球の反対側のことであろうと映像も音声もまるでそこに居るかのようにして、居ながらにして同時に見聞きできます。地球の反対側で起こったことが直ちにわたしたちの日常に影響します。けれども、連絡手段、情報伝達の飛躍的な発達によって、その飛躍に見合うだけの近さをわたしたちは持ち得たでしょうか。発展に比例してわたしたちは互いのことを本当に良くわかり合えるようになったでしょうか。仕事の上でも互いの安否を確かめ合うにも時間も

労力も格段に短く小さくなったでしょう。しかし、そのような社会の中で人に看取られることなく死んでゆく人がおり、貧困にあえぐ子供たちや人々がおり、隣に住まう人がどんな人か知らない暮らしがあります。

使徒が懸命に教会の建設に励んでいる兄弟姉妹たちのことを祈り、フィリピ教会員たちが判決を待つ使徒のことを祈っている近さがあります。彼らの近さ、ひとつであるとの思いとは、互いのことを何もかも分かり合っているということではないでしょう。どんな食べものが好きか、好みは何色か、どんな音楽やスポーツが好きか、結婚しているのか、いないのか、家族は何人でどんな人たちと友人なのか。そんなことは知らなくてもいいのです。異邦人の使徒としてパウロが福音を運んだ伝道旅行には、聖書に書いてあること以上にどれほどの苦しみと戦いがあったのか、フィリピの町に教会が建ってゆくため、兄弟姉妹たちの苦しみ、戦いはどれほどであったのか、わたしたちはそれを十分に知りません。彼らの名前も顔すらも知りません。

そうであっても、同じ思い、同じ志で、同じ戦いを戦っていると言えるのです。この戦いにおける苦しみは、量的に換算できるものではありませんし、また時間的な隔たりによって妨げられることでもありません。キリストのために苦しむという質的な事柄です。「キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむということも、恵みとして与えられている」と語られていることです。苦しみゆえの戦いは、量の多寡によらず、時間を超えて、時代的、社会的環境や状況の違いを越えて、民族性や国民性、地域性や習慣の違いがたとえあったとしても、いつの時代も、どこにおいても、キリストのための苦しみであり、キリストのための戦いです。

何よりもまず、キリストが戦われました。右の頬を打つ者に左の頬をさらに差し出すという仕方で、上着を奪う者に下着をも与えるという仕方で、傷つけてくる者に命さえも差し出してしまわれるという仕方で、キリストが、まずわたしたちの罪のため戦われたのです。神を必要としない、キリストを、救い主を必要としない、と神から離れてゆく人間の罪と戦われるため、キリストは、体を、血を、命をすべて献げられました。

なお人は、キリストの救いを必要ないと拒みます。神を否定し拒否します。そのようにして神を拒み人が失われてゆくこととの戦いは今も止んでいません。依然として戦いは続いています。救いは唯キリストにだけ、唯キリストだけが救い主でいてくださることを知るならば、何とかして、どのようにしてでもキリストを伝えるでしょう。質的に異なることのない、同質の、福音のための戦いは、今も伝道のフロントで、最前線で続いています。パウロも、フィリピ教会の兄弟姉妹たちも、そしてわたしたちも自分たちが勇猛果敢に戦っていると思ってはいません。人間の戦いは、百戦百敗、全戦全敗です。しかし、一つの霊によって、神によって戦う戦いは、既にキリストにおいて、既にキリストの十字架において神が勝利を収められたのであり、勝利を確定されたのです。それゆえ、このようなわたしでさえ良く戦い得るのです。幸いなこと、感謝なことです。

☆☆☆教会の行事☆☆☆

◆いままであったこと

◇10 月 2 日（日）10：30　柿ノ木坂教会 80 周年記念礼拝
　礼拝前に教会学校の、礼拝後に礼拝出席者の記念写真を撮り、簡単なお茶の会を開いた。
　なお、記念写真の申し込み締切は 11 月 20 日ですので、まだの方はお忘れなく！

◇10 月 10 日（月・体育の日）バザー、今回が最後のバザーだった。（下の写真参照）

1階：・雑貨売り場↑　・にじのいえ信愛荘売り場↑　・盛況の食堂（コーヒー・ケーキ・パンなども）↑
2階：・幼稚園売り場　会計待ちの長蛇の列↓　・工作コーナー↓　・ゲームコーナー →

◇10 月 23 日（日）10：30、秋の子供と共に守る礼拝
◇10 月 25 日（火）ベテル幼稚園の運動会が開かれた。
◇10 月 30 日（日）礼拝後、学びの会（次期オルガンについての学び）が開かれた。
◇11 月 6 日（日）永眠者記念礼拝、礼拝後、この一年の間にお亡くなりになった方々のご遺族を囲んだお茶の会が開かれた。

◆これからあること

◇11 月 20 日（日）9：00　教会学校収穫感謝日礼拝
◇11 月 27 日（日）待降節（アドベント）に入る
◇12 月 7 日（水）13：30～15：30　新生会・いずみ会アドベントの集い
◇12 月 9 日（金）10：00～12：00　ベテル幼稚園　保護者のためのクリスマス礼拝
◇12 月 15 日（木）10：00～11：00　ベテル幼稚園クリスマス礼拝（ページェント）
◇12 月 24 日（土）17：00～18：30　聖夜礼拝
◇12 月 25 日（日）10：30　降誕祭礼拝
◇12 月 25 日（日）15：30～16：30　教会学校クリスマス礼拝（ページェント）

集会出席統計（月平均人数））

	2016年	
	9月	10月
主日礼拝	92.8	82.2
聖書と祈り会	16.5	14.2
教会学校＊	91.5	90.0

＊保護者、教師を含む

（第1主日開催）	9月4日	10月2日
聖餐夕礼拝	22	10

＜ケニアからのリポート＞

シロアムの園から

公文　和子

柿ノ木坂教会の皆様には、いつも温かいご支援とお祈りを、心から感謝申し上げます。

クリスチャンホーム、そして柿ノ木坂教会で育った私にとって、神様と人とに仕える人生を歩みたい、という願いは、自然なことでしたが、具体的に自分の人生の中でどうしたらいいのか。医者になって 20 年祈り続けて与えられた答えが「シロアムの園」でした。ケニアで生きる障がいをもった子どもたちの中にイエス様の姿を見、この人たちに仕えなさい、という主の御声を聞くことができた体験でした。

どこの社会でも、障がいをもった子どもたちが生きていくことは易しいことではありませんが、ケニアの障がいを持ったお子さんやご家族にも様々な壁があります。専門的な医療や療育を提供できる施設や専門家の数は少なく、またその質の確保も非常に困難です。これは教育においても同様で、個々のニーズにあった教育が受けられることは殆どないばかりか、学校にすらいけないお子さんたちが大半です。そして、貧困が原因で、治療や教育を継続できず、既にある障がいが悪化することも非常に多いのです。また、社会的には、差別や偏見の対象になり、家族の中でも障がい児を持つことにより、偏見や罪悪感、経済的困難などが原因で、家庭崩壊を起こすことも少なくありません。更に、社会保障や福祉、保険がほぼ皆無の状態において、ただでさえ貧困層である家庭が、ますます経済的に追い詰められていきます。そして、この経済状態やインフラの不備、差別や偏見により、障がいをもった子どもたちが引きこもらざるを得ない現状もあり、障がいをもった子どもたちやそのご家族は、生きがいを感じることができず、抑うつ状態の中で生活していることが多いのです。

神さまは、このような子どもたちやご家族を、

ある日の集合写真

目的をもってこの世に送り出し、こよなく愛して、たくさんの賜物を与えてくださっているのですから、私は、シロアムの園において、子どもたち一人一人に与えられている神様のご計画が成就するためのお手伝いをしたいと考えています。シロアムの池で癒された生まれつきの盲人の人生に神様のわざが現われ、この盲人自身が信仰告白をして神様に用いられたように。

2015 年 1 月から始まったシロアムの園ですが、現在、50 人強の子どもたちが登録され、待機者リストには、常に 20 人前後の子どもたちが並んでいます。スタッフは、作業療法士（OT）、理学療法士（PT）、幼稚園教諭、特別支援教員、ソーシャルワーカー、小児科医（私）その他、総勢 11 名、それぞれの賜物を活かし、専門分野からの仕事をしています。

シロアムの園の一日は、毎朝 8 時、スタッフの讃美・聖書の学び・祈りによって始まります。この仕事を通して、スタッフ一人一人が神様に仕えることを再確認、そして子供たちのために祈る大切な時間です。その後は、車が子供たちの送迎に向かう間、子どもたちを迎える準備。そして子どもたちが到着する 10 時に朝の会が始まります。シロアムの園に来ることを楽しみにして、満面の笑みの子供たちの顔を見ること、

そこに集まる子どもたち・ご家族・スタッフが一つの家族のようになる瞬間が、毎日とっても楽しみです。朝の会の後は、個別療法（PT、OTなど）や個別教育に入る子どもたち、それ以外の子どもたちはクラス活動を行います。

理学療法士のムハンジとマイケルくん

12時を過ぎると、外遊びの時間、そしてランチタイム。家からお弁当を持ってくる子が多いですが、シロアムの園からは、ウジというお粥が出ます。

一方、ご家族たちは、個別療法への付き添い以外の時間は、「ご家族の部屋」で、ソーシャルワーカーを中心に、讃美歌を歌ったり、日常の問題を話し合ったり、悩み事を分かち合ったりというような時間を持っています。毎週金曜日には、シロアムの母体であるキューナ教会のバエ牧師がご家族と交わりの時を持ってくださっています。

2 時には子供たちはシロアムバスに乗って帰宅します。2 時以降は、記録や会議、保護者面談、家庭訪問などに充てています。

また、毎週月曜日は、グループセラピーを行っており、この日は給食サービスがあります。決まった 10 名強の子どもたちが、二クラスに別れてグループで様々な活動を行います。

グループセラピー、ダブクラスの親子遊び

ダブ（はと）クラスは、重症心身障がいを持ったお子さんたちで、子どもたちが様々な新しい体験をする中で、感情の表現を豊かにすること、親子関係の強化、そして摂食訓練などが中心です。イーグル（わし）クラスは、自分で体を動かすことができるお子さんのクラスで、様々な遊びを通して、他者との関係を築き、社会性を育てたり、自立支援などを行います。毎学期末に発表会を行いますが、今学期末発表会では、シロアム初の聖誕劇を企画しています。動けない子・動きすぎる子たちによって行う劇が、どんなものになるのか、楽しみにしています。

医療のニーズも色々あります。免疫が弱いお子さんたちの感染症や痰詰まりはもちろんのこと、多くのお子さんが癲癇（てんかん）を持っていますので、痙攣（けいれん）のコントロールも必要になっています。このような医療も、毎日提供しています。

この 2 年間の活動の中で、子どもたちの成長は目覚ましく、小さな一つ一つの変化に感動を覚えます。特に、人との関係性の成長は、本当に興味深いものです。

殆どの子どもたちが言語のコミュニケーションを持っていない中で、まずは、「安心できる大人」に言葉のないコミュニケーションで心を開いていきます。そして、「わかってもらえる経験」が増えることで、世界が広がり、同士である「他の子どもたち」に関心が広がっていきます。言語がない子どもたち同士のコミュニケーション

家族のお楽しみ会での子供たちのレース

がますます子供たちの世界を広げていきます。ご家族の関わり方にも大きな変化が見られます。「どうせわからないから」と遊び方もわからず、声掛けもない親御さんたちが、お子さんと一緒に遊ぶことを楽しめるようになってきました。そのことによって、他のお子さんたちにも目が向くようになり、思いやりの輪が広がっていきます。このように、私たちは、毎日のように神様の起こす奇跡を目の当たりにし、ますます信仰が深められていきます。

課題は色々あります。私たちの中で、もっとコミュニティに根差し、コミュニティの人たちと共に、長期的な展望で活動を進めていきたいと思う中で、現在の借家では、スペースも限られ、いつまでいられるかわからないのです。

このためには、土地の購入は一つの大きな願いです。高度経済成長期のケニアにおいて、地価が高騰している中で、今後どのようになっていくのか。また、ケニアでの組織化（現在はキューナ教会の一つの事業としての位置づけで、事業そのものはNPOなどの登録がされていません）や、日本での支える会の組織化、長期的な資金確保など、先が見えないことばかりです。それでも、これまであげていた課題に対して、神様が次々と答えをくださり、必要を満たしてくださる経験から、御心であれば、必ず備えられる、と信じて、ますます祈る毎日です。

柿ノ木坂教会の皆様の祈りの中にも、どうぞ覚えていただければ、と思います。

（海外在住会員）

芸西伝道所訪問記

軽部　真理子

今年の夏、中学時代からの友人に高知県に一緒に行かないかと誘われた。高知市内で8月19日～22日の会合に出席しなければならず、一人で行くのは嫌であったらしい。

朝食後は私一人の別行動となり高知県といっても坂本龍馬しか思い浮かばず乗り気でなかったのだが、観光案内で四万十川は高知県を流れている事を知り、以前から訪ねてみたかったので行く事にした。

ガイドブック片手に四万十川流域のサイクリング地図を睨んでいた時、どこからともなく頭の中に囁く声が・・四万十市は去年、熊谷市を抜いて最高気温日本一になった・・日陰のない川の流域をサイクリングってどうよ・・。

確かに自宅に居ても8月の日中は自転車を避けている、では、他にどこか良さそうな所を見つけるしかない。しかし高知県は車がないと観光に不便なようで、電車で行ける所を探しながら路線図を見ていると聞いた事のある様な地名に出くわした。安芸市。え～と、どこで聞いたか？頭の中に今度は渡邊牧師の声が・・芸西と言います、げいせいと読みます・・。たしか、竹内神学生の赴任先の地名であったような。教会名簿を確認していると再び声が・・8月21日は日曜日・・。

芸西伝道所は高知駅から快速列車で約40分、和食駅から歩いて15分ほどの芸西中学校脇にある。スマホのナビを見ながら歩くが、入れた住所を指し示すナビのポイントには家々しかなく見つからない、人は誰も歩いていない、礼拝1時間前に駅に着き（列車の本数がないので）早すぎるなあと思っていた位だったのに、伝道所に到着したのは10分前であった。

夏のまぶしいひかりを受けて十字架がすっくと立っている、それだけで嬉しくなる。入り口から玄関の戸を開ける、昔の柿ノ木坂教会を思い出す、このように入り口に教会の看板があって靴を脱いで礼拝堂に入って行った教会も若かった時代。

いきなり入って行った私を笑顔で教会員の方々が迎えて下さった。木材で作られた会堂のしっとりした木の床の感触が心地よい。2 列に並んだ 4 人掛けの椅子の前列に座って賛美をし、主の聖霊が夏の強い日射しにもまして礼拝堂に降り注ぐように感じながら伝道師となられた竹内先生の説教を聞き、7 名の方と共にまもる恵みの時間を与えられたことに感謝した。

10 時から始まった礼拝は 11 時に終わり、お菓子と冷たいお茶を飲みながら交わりの中に入れて頂き、礼拝に集まった方々を紹介していただいた。

竹内先生から高知県の教会や赴任後のお話を伺う。それぞれの教会がお互いにしっかりと結び合って伝道している事、聖餐もされている事、芳賀先生がいらした事、その際に、会堂建築の計画を早く進める様仰られた事、等々。赴任したばかりで慣れないのに急かされても・・・と、思わず本音？ 秋から建築委員会が始まるとの事。

とても綺麗に使われている礼拝堂だと思いますがと話すと、60 年前に建ち、床がかなり痛んで来ているのです、と教会員の方が教えて下さる。その方は、ここに教会があるということが嬉しいのです、また小さな群れの良いところは一人一人の賜物が活かされるところです、とも仰る。その方の賜物は礼拝に出席すること、一人の出席はとても大事なことだからとお話ししながら、でも、いつ主が呼ばれるか解らない，高齢だしとお笑いになるので竹内先生が、駄目ですよ～新しい会堂も建てるし僕の結婚式（！）もあるし、と、私には初めての教会・初めてお目にかかる方々なのに、昔から出席している様な、とても懐かくまた豊かな思いで心が満たされる体験だった。

芸西伝導所のある芸西村は高知県の中でも空気がきれいで星空が県内一であると、帰りの駅で教会員の方が教えてくださった。駅のすぐ裏は美しい海が広がり、車窓からの眺めも飽き足りない。求道中の方も礼拝に出席しておられ、この伝道所の更なる主の恵みを祈りつつ後にした。

日本基督教団 芸西教会　週報 No. 21　2016. 8. 21　芸西村和食甲 2300-1　Tel. 0887-33-2505　080-3733-0607　伝道師

聖霊降臨後第十四主日

礼拝順序　午前10時、午後19時
司式：竹内伝道師

前奏	(1, 66)
讃詠	545 番
主の祈り	(565)
詩編交読	24 編（旧約855 頁）
讃美歌	16 番
聖書	マタイによる福音書 5 章3 節（新約6 頁）
祈祷	333 番
讃美歌	「心の貧しい人の幸い」
説教	説教：竹内克哉伝道師
祈祷	233 番
讃美歌	日本基督教団信仰告白
信仰告白	北村姉
献金	544 番
頌栄	(1, 546)
祝祷	
後奏	
報告	

先週の集会出席者数

	男	女	計	
主日礼拝	1	6	7	8/14
祈祷会	1	3	4	8/19
CS 子ども	0	0	0	8/20
CS 大人	1	2	3	8/20

今週の会堂清掃　中山長老

今週の予定
22 日（月）
23 日（火）
24 日（水）夏期伝道委員会（土佐鍋幸）午前11 時～
25 日（木）
26 日（金）祈祷会　午前9 時30 分～
聖書：創世記
27 日（土）CS礼拝　午後2 時～

次週礼拝
8 月28 日（日）午前10：00～
聖書：マタイによる福音書5 章4 節
説教：「悲しむ人の幸い」
竹内　克哉伝道師
交読詩編25 編1～5 節、讃美歌17、333、233
司式：竹内伝道師　献金：中山姉

【報告】
今週で鎌田健太神学生の夏期伝道実習は終わります。神学生と東京神学大学を覚えて祈りを捧げていきましょう。

本日午後19 時より、夕礼拝を行います。是非お覚え下さい。

中会礼拝　午後2 時～
聖書　マルコによる福音書10 章17～31 節
説教「持っている者」西林陽暉姉師

教会標語　『希望・喜び・忍耐・祈り』
「兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互い
優れた者を思いなさい。怠らず勤み、霊に燃え
主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐
たゆまず祈りなさい。」
（ローマの信徒への手紙12 章10～

[先週の室戸教会での説教]
先週、竹内伝道師は室戸教会にて説教奉仕を
聖書の箇所はマルコによる福音書5 章1～20 節
聖書での出来事は、イエス様が汚れた霊に取り
をいやすというものでした。しかも、その霊は
りついていました。汚れた霊はイエス様を彼に
抱き、放っておいて欲しいと願います。けれど
様は汚れた霊の願いを聞かず、出ていくように
汚れた霊は豚の中に取りつくことを願い、
それを許します。汚れた霊は豚に取りつき、そ
湖に入っていき、溺れてしまいました。それを
の人たちは町の人たちにそのことを知らせました
や町の人たちはイエス様を厄介者として追い出し
ところが、イエス様が出て行こうとした時、
取りつかれた人だけは他の人たちと態度が違い
は、イエス様が助けてくださったこと、自分の
信じてついて行こうとしたのです。けれども、
その人に家に帰って身内の人に今日の出来事を
いと言います。こうして、取りつかれていた人を
神様の憐みが町に広がっていったのです。
私たちも取りつかれていた人と同じ役目が与え
ます。私たちも礼拝で聞いた御言葉を家族や知人

今月のメッセージ

――ホームページ巻頭言　から――

ホームページには多くの情報が掲載されています。
ぜひご覧ください
http://kakinokizaka-church.com

こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。
（新共同訳聖書・ローマの信徒への手紙
第 12 章 1 節）

牧師として召しを受けて献身する以前、タイムカードを押して出退社する会社に勤めていました。どんなに眠くても疲れていても、朝タイムカードを押せば、そこから公の時間。たとえ仕事が残っていても、夕方タイムカードを押せば、そこからは私の時間。タイムカードを押すことで毎日のリズムを作るような暮らしから、牧師の生活になって戸惑ったのは、時間管理はあくまでも自分自身、24 時間いつでも仕事が出来るけれども、24 時間いつも拘束されているような感覚でした。牧師として教会に仕えるようになって間もなく 20 年、この戸惑いは大分乗り越えましたが、まだまだ時間の管理は下手です。タイムカードのようにはうまく時間の区切りを付けられません。

ところが、牧師であろうと信徒であろうと、クリスチャンとしての根本のあり方を考えると、そこにはパートタイムのクリスチャンということはあり得ないことにも気付かされます。24 時間、365 日、洗礼を受けたその日からわたしたちはいつもクリスチャンです。母教会の牧師が「フーポンクリスチャンになってはいけないよ」とよく話してくれました。フーポンというのは、聖書にたまった埃を、日曜日の朝にフーと吹き払って、ポンと叩き落として教会の礼拝へとやって来ることです。つまり、平日は聖書を読むことも、クリスチャンであることも忘れてしまっている、それではいけないよ、と諭してくれたのです。

四六時中、クリスチャンでございます、とわたしたちは名札を胸に貼っているわけではありません。けれども、わたしたちがこの世のことに心奪われ没頭して、キリストを忘れてしまっているときであっても、キリストが御覧になるならば、わたしたちは、それでもキリスト者、キリストのものであるのです。そして、それはこうも言えるでしょう。たとえ、悲しみや苦しみを負って、キリストが見えなくなってしまったとしても、わたしたちがキリストのものでなくなることは決してないのです。キリストがわたしたちをお忘れになることはありません。キリストが、わたしたちを、24 時間、365 日、いつも覚えていてくださるので、わたしたちはキリスト者でいることができます。このことは決して途切れることがないのです。

（牧師　渡邊　義彦）

―――編集後記―――

・最後のバザーもみんなの働きと主の御守りの内に無事に終えました。いずれの日か新しい形での活動が始められることを祈ります。
・遠くケニアの地で、尊い働きを続ける姉妹からのリポートを掲載できました。そしてまた、芸西伝道所での竹内先生の上にも、共に主の豊かな祝福がありますように。
・まもなく待降節を迎えます。祈りつつ主のご降誕日を迎える準備を進めましょう。
・教会報へのご意見・ご感想をお寄せください。（編集委員長　井澤浩一）

集会案内

主日礼拝　日曜日　午前 10 時 30 分
聖餐夕礼拝　第 1 日曜日　午後 5 時
入門講座　日曜日　午前 9 時 30 分
教会学校　日曜日　午前 9 時
（幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ）
＊ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会　水曜日午前 10 時、午後 7 時 30 分

日本基督教団　柿ノ木坂教会
〒152-0022　東京都目黒区柿の木坂 1-31-19
電話　03-3717-3870（教会・牧師館）
03-3723-3870（ベテル幼稚園）
牧師　渡邊　義彦
協力牧師　松下　恭規